



Share Rotary—  
Serve People

みんなにロータリーを—  
みんなに奉仕を



会長 内山喜一 幹事 斎藤 隆 副会長・クラブ奉仕 佐藤順治 職業奉仕 石川寿男 社会奉仕 佐藤 衛 国際奉仕 三井 健 青少年奉仕 小池繁治

出席報告：出席 75 名 出席 53 名 出席率 70.57% 前回出席率 66.67% 修正出席 63 名 確定出席率 84.00%

会 長 報 告

内 山 喜 一 君

○鶴岡土曜会混声合唱団演奏会期日

6月16日(土) 鶴岡市文化会館

開演 P.M. 7:00

6月23日(土) 酒田市総合文化センター

開演 P.M. 7:00

○ゲストの紹介

鶴岡市消防署長 北村 敏 男 氏

昭和25年9月市役所に勤務され、その後水道部長、建設部長歴任され、現在消防署長に就任し地域住民の生命・財産の安全確保に努力されている方でございます。後程、日本消防の変遷と題してスピーチをお願いしてあります。

幹 事 報 告

斎 藤 隆 君

○例会時間・場所変更のお知らせ

・温海ロータリークラブ

5月28日(月)は、座禅会菜びに山菜とりの為座禅会 12:15～ 木の俣 光慶寺 終了後山菜とり

例会及び懇親会を関川・金沢屋にて 16:00より

登録料 2,000円

午前11時30分あつみ商会前マイクロバス出発。出席の場合前もって連絡して下さい。

・立川ロータリークラブ

移動例会のため6月7日(木)

点 鐘 12:30～

場 所 遊佐町大字吉出 妙泉寺

登録料 4,000円

出席する方は5月31日まで事務局まで

・酒田・酒田東ロータリークラブ

合同例会のため5月23日(水)

ホテルリッチ酒田 12:00～

登録料 1,500円

ゲ ス ト ス ピ ー チ

日 本 消 防 の 変 遷



今年は鶴岡市制施行60周年に当り、多くの記念事業が計画されておりますが、その一つに消防ポンプの移り変わり展があります。そういうこともあり、日本消防の色々な出来事を追ってみたいと思います。

日本の消防を調べてみますと、江戸時代より以前は、多くの火災記録はありますが、制度としては熟していません。西暦800年頃、平安朝時代に、専ら宮殿を防火する役目として「禁裡火消制度」がありました。詳しいことはわかりません。話はどうしても江戸が中心となります。

1648年三代将軍家光は、「火災予防に関する町触れ」を公布し、定火消として江戸城や大名屋敷の警

鶴岡市消防署長 北 村 敏 男 氏

防を命じました。これが常備消防の始まりと云えます。当時の大名屋敷は、椀葺き又は本瓦葺きで、一般の家は板葺き、藁葺き、茅葺きで、常に延焼大火になる危険性がありました。一般民家の瓦屋根は禁止されていたのです。家光は4000石の旗本二人に命じて、与力6騎、同心30人、ガエンと称する火消し人足70人よりなる消防隊を編成し、四谷御門、半蔵門の警防に当らせました。ところが、ガエンは城内で博打をやったり、酒や料理を盗んだりして世の不評を買いました。我々プロ消防士の先輩がこのような生活態度であったことは残念でたまりません。

1657年(明暦3年)江戸に107,000人の焼死者を出す大火がありました。これは振袖火事とも云われ、日本有史最大の火災です。明暦3年から明治14年までの224年間で、長さ15町(1635m)以上の大火が93件、2年5ヶ月に1件の割合で発生しています。

庄内空港の建設を推進しましょう

昭和51年の酒田大火ですら長さ約800mですから、如何に規模が大きかったかが想像されます。この大火後に江戸城が再建され、江戸の都市計画が樹立されました。

1659年(万治2年)徳川幕府の政策が浸透し、世の中も落ち着いてきました。将軍家綱は、武士の士気昂揚を図るため、上野の東照宮前で4人の火消役に命じ、幕閣並居る前、火事装束も勇ましく、出初めの指揮をとらせました。これが出初め式の始まりです。

1671年(寛文11年)鶴岡に町火消が誕生しました。江戸の「いろは48組」の町火消よりも50年早く出来ました。この事は、私達が自慢出来ることでしょう。当時、鶴岡の元曲師町より出火、曲師、絵物師の住む町として、燃え易い桧材が多かったため、見る見るうちに延焼拡大し、罹災戸数104戸に及びました。この対策として町火消が出来たのです。

1718年(享保3年)8代将軍吉宗は、武家屋敷の防備のみに重点を置いた体制に疑問をもち、儒学者萩生徂徠の進言をうけ、江戸奉行大岡越前の守忠相に命じ、火事の時、風上、風の左右二丁以内から人足30人ずつ出させ、火消しに当らせました。いつも火災現場において活躍の目覚しい鳶職、大工、日用座の人足を選抜し、「いろは48組」を設置しました。彼等は選ばれたというプライドもあり、又人間的にも立派でした。これが消防団の始まりです。ここで培われた自尊、自己責任、自己犠牲の消防精神は、約300年後の今日まで脈々として受け継がれて来ています。「火事と喧嘩は江戸の華」と云われていますが、火事が江戸の華という意味は、町火消の火事現場における働きが華々しいという外に、素晴らしい人間性を賞讃していると思うのです。

1867年(慶応3年)徳川慶喜が大政奉還しましたが、薩摩は尚、討幕の意志が強く、開戦の端緒をつくるため、江戸・関東各地に騒擾を起させました。時に市中取締役であった荘内藩家老の松平権十郎は薩摩を攻撃しなければ取締役の責任を果せないとして、荘内藩兵1,000人を主力として薩摩屋敷を攻撃し焼き払ってしまった。しかし今日、西郷隆盛が縁となり、鹿児島市と鶴岡市は兄弟都市の盟約を結んでいることは、全く興味深いことです。

1947年(昭和22年)終戦によって、警防団令が改正され、「防空」が削除されました。22年に新らしく消防団令が公布され、市町村に自主的民主的消防

団が義務設置とされましたが、23年には従来の勅令の消防団令が廃止され、任意設置の消防団令が公布され、指揮監督権は警察署長より、市町村長、消防長、署長に移行されました。時代の変化の激しさを伺い知ることができます。

1948年(昭和23年)マッカーサー元帥から、警察制度改革に関する基本針が内閣総理大臣あて書簡で示されました。この方針は警察を地方分権化し、人口5,000人以上の市町に、自治体警察を設置させることと、警察は本来の犯罪捜査等に専念し、その他の行政事務はできるだけ地方自治体に委譲することとされました。23年に消防法、消防組織法が制定され、名実共に自治体消防として発足し、近代消防の第一歩を踏み出したのであります。

1963年(昭和38年)救急業務が消防の実施義務として位置づけられました。救急業務を警察が担当するか、それとも消防が担当するかということで大論争があったようです。何れも民主警察として、民主消防として国民から親しまれ、感謝されるには救急業務は非常に魅力のある仕事であり、両者共、所轄業務として実施したい希望をもつことは当然のことでしょう。結局、消防担当になったことは、我々消防人として、大変嬉しく思っています。しかし最近ハイヤー代りに利用される傾向が強くなってきたことは残念です。救急車の正しい利用法について、私達はもっともっとPRしなければならないと思っています。

## スマイル

- 高橋良士君 5月20日健康管理センター竣工を記念して、国立癌センター研究所長・杉村先生の公開講演の開催で1,200名の聴講を得て。
- 吉野 勲君 木村屋菓子業100周年記念と両親喜寿のお祝い。
- 小池 繁治君 絵画展の開催にて。
- 丹下誠四郎君 社団法人日本バーテンダー協会よりミスターバーテンダーに選ばれ全国14名中東北より1人に選ばれて。

## ビジター

- 鶴岡西R.C. 井上 彬君・加藤重郎左エ門君  
野口 弥君・佐藤成生君
- 温海R.C. 本間 毅君・阿部一太君  
(今週の担当者 嶺岸光吉)